

前谷遺跡Ⅻ

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県戸田市教育委員会



1 全景（東から）



2 全景（西から）

はじめに

埼玉県南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口14万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の急激な変化とともに社会的、文化的な環境も急速に変わってきておりますが、古来より受け継がれてきた伝統や文化を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護及び活用が求められています。

今回報告いたします前谷遺跡第12次発掘調査は、道路建設に伴い令和4年に緊急発掘調査が行われたものです。

この発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代に生活を営んだ人たちが遺した貴重な資料を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を得ることができ、地域の遺跡の性格の一端を明らかにすることができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、御尽力、御協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

令和5年1月

戸田市教育委員会
教育長 戸ヶ崎 勤

例 言

1. 本書は、埼玉県戸田市上戸田二丁目2番17に所在する前谷遺跡第12次発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、個人事業者による道路建設に伴う緊急発掘調査として、「埼玉県戸田市教育委員会(以下、「市教委」という。)が株式会社四門の支援を受けて実施した。また、整理作業及び報告書作成作業は、市教委が株式会社四門の支援を受けて実施した。
3. 発掘調査は、令和4年9月26日から令和4年10月15日まで行い、整理作業・報告書作成作業は令和4年10月17日から令和5年1月26日まで株式会社四門文化財センターで実施した。
4. 発掘調査から報告書作成までの事業費は、全て事業者の負担による。
5. 本書は、市教委が刊行した。
6. 本書は、今井源吾が監修した。編集は西井幸雄(株式会社四門)指導の下、田中雄大が行った。執筆は第1章第2節、第2章第4節、第3章は田中が、その他の部分は今井が行った。
7. 発掘現場での記録写真の撮影は田中が行い、出土遺物の撮影は大谷舞菜(株式会社四門)が行った。
8. 本書の著作権は、市教委が保有する。発掘調査成果の周知、活用、学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製し、利用できるものとする。
9. 出土遺物及び発掘調査の各種データ等は全て市教委が保管し、活用を図るものとする。
10. 本事業は、以下の組織により実施した。

【埼玉県戸田市教育委員会】

教 育 長 戸ヶ崎 勤

教 育 部 長 山上 睦只

次 長 星野 正義

生涯学習課長 鎌田 陽子

高屋 勝利

生涯学習課主幹 本橋 洋

生涯学習課主事 金子 遥奈

今井 源吾(出土品整理・報告書作成担当)

【株式会社四門】

調査員 田中 雄大

発掘調査及び整理作業参加者

小松祐佳 谷崎 圭 千葉澄子 中井隆司 中里晴彦 西井幸雄 野口泰成 福江貴浩

石井夏樹 大谷舞菜 関根信夫 高橋可南子 高橋泰子 中島真華 丸木理子 松崎 昇(順不同)

凡 例

1. 挿図中の地図の方位は、真北の方位を示す。
2. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に即している。
3. 遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。
なお、遺構略号は下記のとおりである。
SD：溝状遺構 SX：周溝状遺構 P：ピット
4. 発掘調査時の土層観察における色調及び遺物観察における色調は、『新版 標準土色帖』2018年度版（小山正忠・竹原秀雄 編・著者、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）を参考にした。
5. 遺構断面図内の土層説明は、全て記録者の記載に従う。
6. 遺物の種別の内、弥生時代後期後半から古墳時代前期に属する土器は、すべて「土師器」と表記した。
7. 遺物観察表法量の〈 〉の値は残存値を、()の値は推定値を示す。
8. 遺物拓図は、向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし、外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。
9. 遺物実測図及び遺構実測図の縮尺はすべて挿図中に示した。
10. 標高は、T. P（東京湾中等潮位）を基準とした。
11. 遺構実測図の水糸レベルはすべて標高 2.20m に統一した。
12. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：MY. 12. SX — 1. 1
└─┘ └─┘ └─┘ └─┘ └─┘
遺跡略号 調査次 遺構種別 遺構番号 遺物番号

表面採取遺物や攪乱層出土遺物については、遺跡略号及び調査次のみを記載した。

目 次

はじめに

例言／凡例

目次／挿図目次／挿表目次／図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2 整理作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第2節 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

第3節 遺跡・調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第4節 基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

1 周溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

2 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

3 ビット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

第2節 近世の遺構

1 溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

2 ビット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

第4章 まとめ

1 縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

2 弥生時代後期後半から古墳時代前期・・・・・・・・・・・・19

3 近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

4 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録／奥付

挿図目次

第1図	埼玉県の地形	3	第11図	第2号溝状遺構出土遺物実測図 (SD02)	15
第2図	戸田市域の地形	4	第12図	第3号溝状遺構出土遺物実測図 (SD03)	15
第3図	前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図	5	第13図	第4号ピット実測図 (P04)	16
第4図	前谷遺跡調査区位置図	7	第14図	第4号ピット出土遺物実測図 (P04)	16
第5図	調査区全体図	10	第15図	第1号溝状遺構実測図 (SD01)	17
第6図	調査区等高線図	10	第16図	ピット実測図 (P01～03・P05～10)	17
第7図	基本土層図	11	第17図	ピット実測図 (P11・12)	18
第8図	第1号周溝状遺構実測図 (SX01)	12			
第9図	第1号周溝状遺構実測図・出土遺物実測図 (SX01)	13			
第10図	第2・3号溝状遺構実測図 (SD02・03)	14			

挿表目次

第1表	前谷遺跡周辺遺跡の概要	5	第4表	第4号ピット出土遺物観察表 (P04)	16
第2表	第1号周溝状遺構出土遺物観察表 (SX01)	13	第5表	第4号ピット計測表	16
第3表	第2・3号溝状遺構出土遺物観察表 (SD02・03)	15	第6表	ピット計測表	18

図版目次

巻頭図版		3	第1号周溝状遺構 BB ¹ 断面 (南西から)	
1	全景 (東から)	4	第1号周溝状遺構遺物出土状況 (西から)	
2	全景 (西から)	5	深掘南壁基本土層 (北から)	
図版1		図版4		
1	第1号溝状遺構完掘 (南から)	1	第1号ピット断面 (南から)	
2	第1号溝状遺構 AA ¹ 断面 (東から)	2	第1号ピット完掘 (南から)	
3	第1号溝状遺構 BB ¹ 断面 (南から)	3	第2号ピット断面 (南から)	
4	第1号溝状遺構遺物出土状況 (南から)	4	第2号ピット完掘 (南から)	
5	第11号ピット完掘 (北から)	5	第3号ピット断面 (南から)	
図版2		6	第3号ピット完掘 (南から)	
1	第2号溝状遺構完掘 (南から)	7	第4号ピット断面 (北西から)	
2	第2号溝状遺構北部拡張 (南から)	8	第4号ピット完掘 (北西から)	
3	第2号溝状遺構断面 (北から)	図版5		
4	第2号溝状遺構遺物出土状況1 (東から)	1	第9号ピット断面 (南西から)	
5	第2号溝状遺構遺物出土状況2 (北から)	2	第9号ピット完掘 (南西から)	
図版3		3	第12号ピット断面 (東から)	
1	第1号周溝状遺構完掘 (南西から)	4	第12号ピット完掘 (東から)	
2	第3号溝状遺構、第1号周溝状遺構断面 (北から)	5	出土遺物	

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

令和4年6月、事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教委」という。）に対し、戸田市上戸田二丁目2番13、14(地番表示)における道路建設の事業計画及び埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

市教委では、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地周辺地域に所在しており、開発工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対し工事着手前に試掘確認調査を実施するように指導した。

これを受け、令和4年6月20日及び令和4年7月26日付けで事業者から市教委に対し試掘確認調査の依頼書が提出され、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘確認調査は、市教委が令和4年8月8日に実施した。試掘調査では、弥生時代末から古墳時代前期に属する溝状遺構等が確認され、同時期に属するものと考えられる土器を検出した。

この調査結果に基づき、令和4年8月19日付け戸教生第962号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」と略す。）宛に報告し、令和4年8月19日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更を行った。

今回の事業計画地について試掘調査の結果に基づき市教委と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、道路建設範囲(88.18㎡)については記録保存のための緊急発掘調査を行い、残りの部分(304.58㎡)は、工事計画が未定であるため、工事計画が決まり次第事業者と別途協議を行うことで合意した。

令和4年9月15日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教委は令和4年9月21日付け戸教生第1143号にて県教育委員会に宛て進達した。

これを受け、県教育委員会から事業者に対し、令和4年9月21日付け教文資第4-1395号で、事業計画地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査に当たり、事業者は、市教委に対し、令和4年9月15日付けで発掘調査の依頼書を提出した。また、令和4年9月20日付け戸教生第1091号にて事業者及び市教委の二者による「道路建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第99条に基づき、市教委から県教育委員会宛てに令和4年9月22日付け戸教生第1138号にて埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、前谷遺跡第12次発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査

前谷遺跡第12次調査は、令和4年9月26日から10月15日まで実施した。調査面積は、88.18㎡である。9月26日に調査区設定、発掘現場の仮囲いなどを行った。同日、重機による表土掘削を実施し、掘削した排出土は、事業予定地内から搬出することが出来ないため、事業予定地内に仮置きし保管した。発掘調査で使用する機材等は、事業予定地内に保管した。27日は午後遺構検出状況の写真撮影を行い、撮影終了後、遺構の調査を開始した。同日に基準点測量も行った。10月5日に基本層序作成のためのトレンチ調査を行った。12日に全景写真撮影を行い、14日に発掘資機材の搬出、重機による埋め戻し・整地を行った。15日に仮設トイレの搬出を行い、全ての現場調査が終了した。

発掘調査での写真撮影は、デジタル一眼レフカメラ Nikon D610 を使用し、RAW (NEF)、JPEG 形式にて撮影した。

遺構の平面図作成は、エースプロジェクト A-survey を使用し、土層断面図は手実測にて行った。

2 整理作業

当該調査に係わる出土品及び図面の整理作業、報告書作成は令和4年10月17日から令和5年1月26日まで株式会社四門文化財センターにて実施した。

発掘調査にて出土した遺物は、洗浄・註記・接合を行い、報告書に掲載するために遺物を抽出した。抽出した遺物は実測図作成・拓影採取を行った。採取した拓影はスキャナにてコンピュータに取り込んだのち、Adobe Photoshopにてデジタルデータ化した。作成した実測図は、Adobe Illustratorにてデジタルトレースを行った。デジタルデータ化した拓影がある遺物は、デジタルトレースした遺物と合わせて、デジタルデータ化した。土層断面図は、スキャナにてコンピュータに取り込んでデジタルデータ化し、Adobe Illustratorにてデジタルトレースを行った。

遺物写真は、SONY α3400 を使用して RAW (NEF) 形式にて撮影し、TIFF 形式ファイルを作成した。版下は、Adobe Illustrator 及び InDesign にて作成し、INDD 形式ファイルにて入稿した。

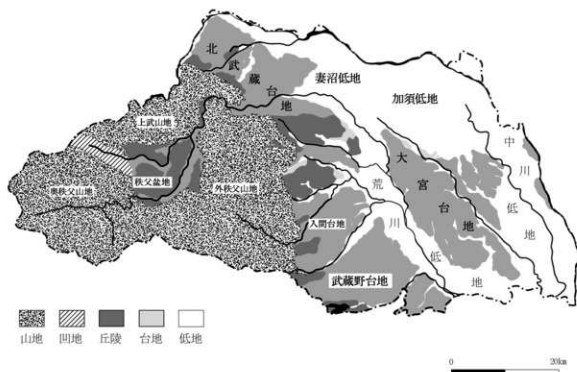
第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約6.0km、南北約3.0km、面積18.19km²の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市及び川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市及び和光市、南の東京都板橋区及び北区とは、荒川を隔てて接している。市域には、国道17号線（旧中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速5号線、東京外郭環状道路、JR埼京線の開通により、交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、約2万年前の最終氷期に形成された開析谷を利根川等の河川が運搬した土砂により形成された平坦な沖積低地（荒川低地）に位置している。荒川低地の下流には標高3mほどの微高地が発達し、市内では中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市まで荒川にそって分布し、この微高地の南北に低地が裾のように広がる。この微高地は自然堤防とする説もあるが、荒川右岸に微高地が確認できないことや、形状が団子状を呈していることから浅谷もしくは海成段丘との指摘もある。

市内の地層は、戸田市本町付近では地下50mの地点に開析谷の基底礫層があり、その上に軟弱な沖積層が充填している。沖積層の上部2mから3mの層は戸田・蕨地域ではよく見ることが出来る黄褐色・灰白色のシルト質粘土層で、戸田市においては遺跡の検出面としている層である。この層は岩質が均一である点や、微低地にはヨシ・マコモなどの水辺植物の遺体からなる泥炭層が挟在していることから、



第1図 埼玉県の地形

荒川低地を流れていた旧利根川が中川低地に東遷し、デルタ的環境から流水の影響の少ない湖沼・潟的な環境に移行した後に形成された層である。形成時期については、泥炭層の炭素年代が 1640 ± 60 yBP とされることから、弥生時代末から古墳時代前期の時期にあたり、市内に初めて集落が形成された当時は微高地の周囲には湖沼・潟的な環境が広がっていたと見られる。

前谷遺跡は、上戸田二丁目を中心に広がる遺跡である。JR 埼京線戸田公園駅から北東に約 700m、戸田駅から南東に約 900m の位置に所在し、東側に国道 17 号線(旧中山道)が南北に走る。今回の調査地は、前谷遺跡の北東に位置し、荒川左岸に形成された標高約 3.5m の微高地上に立地する。

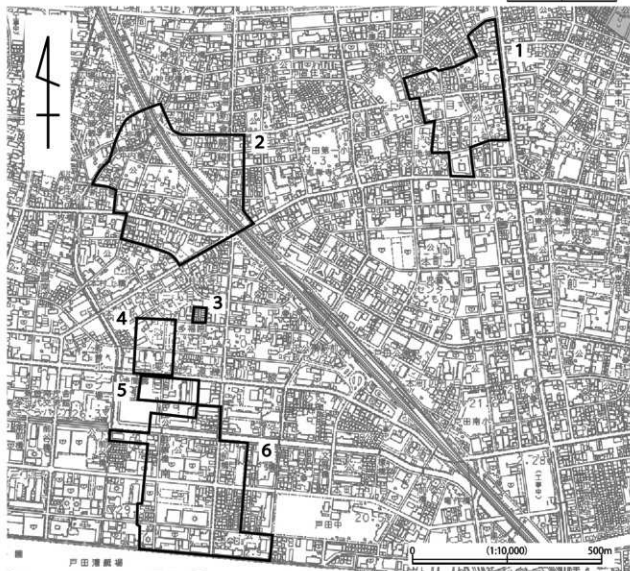
第 2 節 歴史的環境

戸田市では、現在までのところ旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代に帰属する遺跡も確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯 a 式の破片資料 1 点が出土しており、本町からは前期末のほぼ完形の十三菩提式深鉢形土器が出土している。また、戸田市文化会館の建設中に、含礫砂層から縄文時代前期から中期の頃の化石人骨が見つかった。人骨の周囲には丸木舟と見られる木屑なども見つかり、この時期の戸田市域が海進の影響を受けていたことが分かる。中期は、鍛冶谷・新田口遺跡・前谷遺跡や南原遺跡などで勝坂式・阿玉台式や加曾利 E 式期の土器片が検出されている。後期は、鍛冶谷・新田口遺跡では、堀之内式、加曾利 B 式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。

縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古



第 2 図 戸田市域の地形



第3図 前谷遺跡及び周辺の遺跡位置図

第1表 前谷遺跡周辺遺跡の概要

No.	遺跡名	所在地	種別	時代	立地
1	前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目	集落跡・城跡跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	微高地
2	観音谷・新田口遺跡	戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新井	集落跡	弥生後期・古墳前期	微高地
3	大前遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	微高地
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前期/後期・中世	微高地
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	微高地
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前期/後期・奈良・平安・鎌倉	微高地

墳時代前期初頭になると、市内の微高地上に遺跡が形成されるようになる。

弥生時代後期末から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡及び根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和51年(1976)に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓(周溝状遺構)群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、第2次及び第3次調査では、環濠と思われる溝状遺構と溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された遺跡は南原遺跡第2次調査B区で竪穴住居跡3軒、第9次調査で井戸跡1基、第10次調査で竪穴住居跡1軒と、土坑2基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内には、「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在し、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀2振が出土している。また、上戸田本村遺跡では鬼高式期の竪穴住居跡2軒、馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。南原遺跡では、第1次調査で人物埴輪、円筒埴輪等が出土した円墳1基、第2次調査A区で円形周溝墓(円墳)1基、第3次調査D区で鬼高式期の竪穴住居跡1軒と屋外竪穴1基、第4次調査で円形周溝墓(円墳)2基、第6次調査で円形周溝墓(円墳)1基、第8・9次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が2基検出されている。第12次調査では、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基検出されている。

平安時代は、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、柵列跡、畝状遺構が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつての佐々目郷に当たり、鎌倉時代から戦国時代にかけて鶴岡八幡宮の社領であった。当該期は、大前遺跡や前谷遺跡、南原遺跡、南町遺跡及び美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸跡などが検出されている。

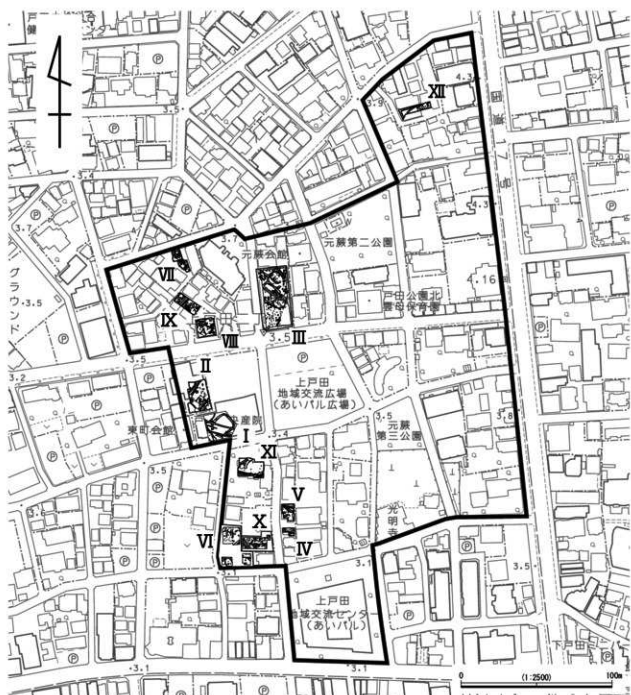
近世は、市の大半の村が幕府の直轄領となり、徳川家の鷹場として使用されていたことが分かっている。また、五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡る「戸田の渡し」が板橋宿と蔵宿を結ぶ交通の要所として機能していた。当該期は鍛冶谷・新田口遺跡で溝状遺構や井戸跡が、前谷遺跡で井戸跡、美女木八幡社脇遺跡では美女木八幡社を廻っていた堀の跡が検出されている。

第3節 遺跡・調査の概要

前谷遺跡は、JR埼京線戸田公園駅から北東約700mの埼玉県戸田市上戸田二丁目地内に所在する。遺跡周辺には、「橋構(とうがまえ)」、「竹ノ内」、「左衛門屋敷」、「雑色」、「元蔵」等の地名が古くから残っている。

中山道蔵宿の成立が元蔵からの移住に伴うことが、戸田・蔵の近世文書で確認できることから、中世には同地に六産市などが開かれていたと見られ、また土塁の一部であった可能性のある地彫れ状の地形が残存していたことから、「蔵城」がこの地域に存在していた可能性が指摘されている。

本遺跡は、昭和47年(1972)の第1次発掘調査から、本調査を含めて12次にわたる発掘調査が実施されている。



- | | | |
|------|---------------------|-----------------------------------|
| I | 第1次調査 (1972) | : 戸田市教育委員会調査 (伊藤 1978) |
| II | 第2次調査 (2007) | : 戸田市教育委員会調査 (岩井 2014) |
| III | 第3次調査 (2011) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査 (赤熊 2015) |
| IV | 第4次調査 (2011 ~ 2012) | : 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査 (岩井 2015) |
| V | 第5次調査 (2016) | : 戸田市教育委員会調査 (長澤 2018) |
| VI | 第6次調査 (2017) | : 戸田市教育委員会調査 (吉田 2019) |
| VII | 第7次調査 (2019) | : 戸田市教育委員会調査 (今井・辻 2020) |
| VIII | 第8次調査 (2020) | : 戸田市教育委員会調査 (今井・諸星 2020) |
| IX | 第9次調査 (2021) | : 戸田市教育委員会調査 (今井・内田 2021) |
| X | 第10次調査 (2021) | : 戸田市教育委員会調査 (今井・林・バリノサーヴェイ 2021) |
| XI | 第11次調査 (2021) | : 戸田市教育委員会調査 (今井 2022) |
| XII | 第12次調査 (2022) | : 戸田市教育委員会調査【本調査】 |

第4図 前谷遺跡調査区位置図

第1次発掘調査は、昭和47年(1972)8月23日から9月6日までの期間で、店舗建設に伴う緊急発掘調査として市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構2基と平安時代から中世の溝状遺構8条などである。遺物は、周溝状遺構から複合口縁を持つ壺形土器、台付甕形土器、広口壺形土器、高環形土器などが出土している。第3溝から10世紀代に比定できる灰釉陶器、須恵器、土師器等が検出され、第4溝は、断面形状が葉研状を呈しており、中世城館の堀であった可能性が指摘されている。

第2次発掘調査は、平成19年(2007)2月13日から3月20日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構2基、平安時代の掘立柱建物跡1棟、溝状遺構3条、中世の溝状遺構2条、井戸跡2基、土坑1基、その他時期不明であるが平安時代から中世に帰属する可能性がある櫛跡4列、土坑4基、ピット43基である。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の瓦塔片、須恵器、土師器、中世の陶器、漆器、板碑、その他土製紡錘車、砥石等である。これらのなかでも詳細な時期・産地は不明であるが、第5号溝状遺構から出土した線刻画が施された須恵器瓶の破片資料は、他に類例が少なく、特筆できる。

第3次発掘調査は、平成23年(2011)12月1日から平成24年(2012)1月31日までの期間で、戸建分譲住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は古墳時代前期の周溝状遺構6基、井戸跡1基、土坑10基、平安時代の土坑37基、井戸跡3基、溝状遺構1条、ピット59基、中・近世の溝状遺構4条、井戸跡1基などである。遺物は、複合口縁を持つ壺形土器、甕形土器、台付甕形土器、無頸壺、8・9世紀の東金子、南比企及び末野産の須恵器、中世の常滑焼、近世の天目茶碗等が出土している。

第4次発掘調査は、平成23年(2011)12月26日から平成24年(2012)1月18日までの期間で、戸建専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、財団法人埋蔵文化財調査事業団が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構1基、溝状遺構1条、平安時代の溝状遺構3条を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器、平安時代の須恵器、土師器、緑釉陶器、瓦塔片、中世の陶器等を検出した。

第5次発掘調査は、平成28年(2016)6月1日から6月30日までの期間で、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、溝状遺構1条、平安時代の溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡2基、その他時期不明のピット11基を検出した。遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中世の陶器片を検出した。

第6次発掘調査は、平成29年(2017)4月17日から5月31日までの期間で、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構4基、土坑1基、平安時代から中世相当の溝状遺構5条、土坑21基、井戸跡4基を検出した。出土遺物は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、平安時代の須恵器、ロクロ土師器、中・近世の陶器片が出土した。

第7次発掘調査は、令和元年(2019)12月2日から12月20日までの期間で、個人住宅建設に伴う

緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、平安時代から中世までの畝状遺構 17 条、区画溝 3 条、土坑 26 基、その他時期不明のピット 23 基を検出した。出土遺物は、古墳時代前期の土師器、平安時代の須恵器、土師器、ロクロ土師器が出土した。このうち畝状遺構は平安時代の畑作遺構として戸田市内では初めて確認された。

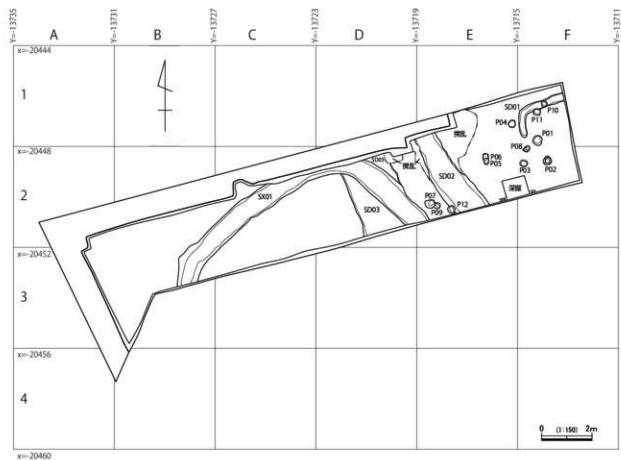
第 8 次発掘調査は、令和 2 年（2020）5 月 8 日から 6 月 12 日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、平安時代の柵列跡 1 列、溝状遺構 1 条、井戸跡 1 基、土坑 2 基、ピット 4 基、中世の溝 1 条、土坑 4 基、近世の土坑 6 基、ピット 12 基、時期不明の性格不明遺構 1 基、ピット 42 基を検出した。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、ロクロ土師器、陶器、砥石が出土した。

第 9 次発掘調査は、令和 3 年（2021）1 月 13 日から 2 月 12 日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代の周溝状遺構 1 基、ピット 1 基、奈良・平安時代の溝状遺構 3 条、時期不明の溝状遺構 6 条、土坑 5 基、ピット 4 基を検出した。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の須恵器、土師器、土師質土器、陶器が出土した。周溝状遺構は、残存状況のいい壺、高坏等が多く出土しており、方形周溝墓の可能性が高い。

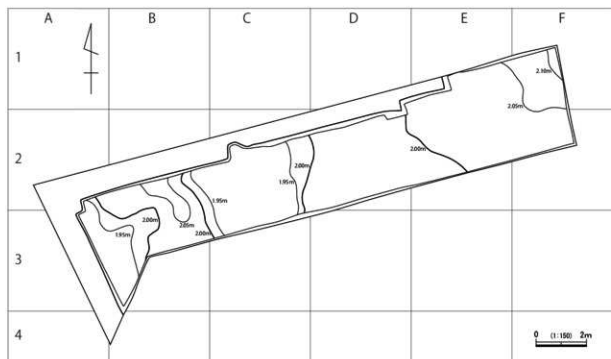
第 10 次発掘調査は、令和 3 年（2021）1 月 12 日から 2 月 12 日までの期間で、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期の溝状遺構 8 条、土坑 7 基、平安時代から中世までの溝状遺構 6 条、井戸跡 1 基、土坑 12 基、近世の井戸跡 1 基、土坑 9 基である。出土遺物は、弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の土師器、須恵器、丸軋、陶磁器、近世土器、銭貨が出土した。特に丸軋は市内で初めて確認されたもので、平安時代の様相を知る上で貴重な成果である。

第 11 次調査は、令和 3 年（2021）7 月 12 日から 8 月 25 日までの期間で、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構 2 基、溝状遺構 7 条、土坑 4 基、平安時代から中世にかけての溝状遺構 1 条、時期不明のピット 9 基を検出した。遺物は弥生土器、古墳時代前期の土師器、平安時代の須恵器、土師器が出土した。

本調査は、第 12 次発掘調査となる。令和 4 年（2022）9 月 26 日から 10 月 15 日までの期間で、道路建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が実施した。検出した遺構は、古墳時代前半の溝状遺構 2 条、周溝状遺構 1 基、ピット 1 基、近世の溝状遺構 1 条、ピット 11 基を検出した。遺物は古墳時代前半の土師器、近世の瓦が出土した。



第5図 調査区全体図

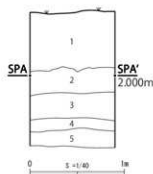


第6図 調査区等高線図

第4節 基本土層

基本土層は、E・F-2グリッドに深掘区を設定し、地表面下約1.4～1.5mまでの土層を確認し、5層に分層した(第7図)。本調査区の遺構確認面の標高は、約1.90～2.10mである。明確な起伏は存在せずほぼ平坦であるが、西に向かって緩やかに傾斜している。

1層は、上層に整地の為の盛土が堆積し、下層に黒褐色土を主体とする擾乱土が堆積している。2層は、にぶい黄橙色土層で、本層上面において遺構を検出したため、遺構確認面とした。3層、4層は、にぶい黄橙色土層であり、5層は、黄灰色シルト層である。



基本土層 土層説明

- 1 盛土
- 2 10YR7/4 (にぶい黄橙色土) 粘性あり、締まりあり
- 3 10YR6/4 (にぶい黄橙色土) 粘性あり、締まりあり
- 4 10YR6/3 (にぶい黄橙色土) 粘性あり、締まりやや強い
- 5 2.5Y4/1 (黄灰色シルト) 粘性なし、締まりあり

第7図 基本土層図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

1 周溝状遺構

第1号周溝状遺構—SX01

遺構（第8図 図版3-1~3）

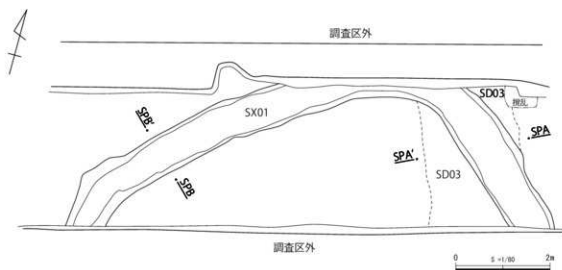
位置：B～E-2、B・C-3グリッド。重複関係：遺構検出段階では、SD03との重複関係が不明であったため平面図上ではSX01が切る形になっている。しかし、土層断面ではSD03がSX01を切る形になっていたため、SX01の方が古いものと考えられる。主軸方位：北東-南西でN-58°-E。規模・形状：両端が調査区外へ伸びているため、全体の規模は不明である。調査区内ではやや丸みを帯びたコの字状に屈曲し、周溝状遺構のコーナー部であると考えられる。コーナーを起点とすると調査区内の長さは北溝6.71m、東溝3.77mである。上端幅0.81～1.06m、下端幅0.44～0.83m、確認面からの深さ0.56mである。断面形は箱形を呈する。覆土：2箇所にて覆土を観察した。4層と7層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第9図 図版3-4、図版5-5-1~3）

出土遺物：本遺構からは、土師器55点、691.5gが出土している。これらのうち3点を図示した。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



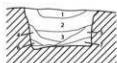
第8図 第1号周溝状遺構実測図 (SX01)

SPA



SPA

SPB



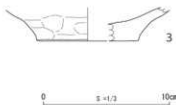
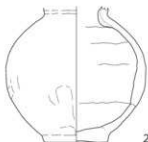
SPB

SX01 (SPA SPA)

- 1 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの橙色粒子多量、 $\phi 2 \sim 3$ cmの橙色ブロック微量含む。
 2 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの明黄褐色粒子多量、 $\phi 2 \sim 3$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
 3 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの明黄褐色粒子中量、 $\phi 2 \sim 3$ cmの明黄褐色ブロック中量含む。
 4 10YR2/3 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの明黄褐色粒子中量、 $\phi 2 \sim 3$ cmの明黄褐色ブロック中量含む。

(SPB-SPB)

- 1 10YR5/4 (にぶい黄褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの明黄褐色粒子中量、 $\phi 2 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック中量含む。
 2 10YR3/1 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 1$ cmの明黄褐色粒子中量、 $\phi 2 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック多量含む。
 3 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 2$ cmの明黄褐色粒子多量含む。
 4 10YR5/6 (黄褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 2 \sim 3$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
 5 10YR5/6 (黄褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 1$ cmの明黄褐色粒子中量含む。
 6 10YR2/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの明黄褐色粒子少量含む。
 7 10YR5/1 (褐色土) 粘性、締まりあり $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの明黄褐色粒子少量含む。



第9図 第1号周溝状遺構実測図・出土遺物実測図 (SX01)

第2表 第1号周溝状遺構出土遺物観察表 (SX01)

調査番号	出土遺物	種別	部位	法量 (mm)	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
9-1	SX01	土師器	胴部	—	5.5	外面 タテハケメ	$\phi 1$ mm以下白色粒子微量	普通	外面 にぶい褐色 (7.5YR5/4)	
5-1				—		内面 ナデ			内面 にぶい褐色 (7.5YR5/4)	
9-2	SX01	土師器	口縁部 ～底部	—	148.8	外面 縦方向にヘラナデ	$\phi 1$ mm以下白色粒子少量	普通	外面 赤褐色 (5YR4/6)	器面が剥離し 調整不明
5-2				小型壺		(10.8) 5.0			内面 ヨコナデ	
9-3	SX01	土師器	底部	—	39.0	外面 ヨコナデ?	$\phi 1 \sim 3$ mm赤色粒子多量	普通	外面 褐色 (7.5YR7/6)	器面が摩耗し 調整不明
5-3				—		(2.6) (7.8)			内面 ヨコナデ?	

2 溝状遺構

第2号溝状遺構—SD02

遺構 (第10図 図版2-1～3)

位置：D・E-1、E-2グリッド。重複関係：P12に切られる。主軸方位：N-33°-W。規模・形状：調査区内では概ね直線状を呈する。南北方向は、調査区外に延びる。調査区内では長さは3.44m、上端幅1.22～1.29m、下端幅0.69～1.01m、確認面からの深さ0.47mである。断面形は箱形を呈す

る。覆土：1箇所にて覆土を観察した。6層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第11図 図版2-4・5、図版5-5-4~7）

出土遺物：本遺構からは、縄文土器1点、17.8g、土師器8点、228.0gが出土している。これらのうち縄文土器1点、土師器3点を図示した。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

第3号溝状遺構—SD03

遺構（第10図 図版3-2）

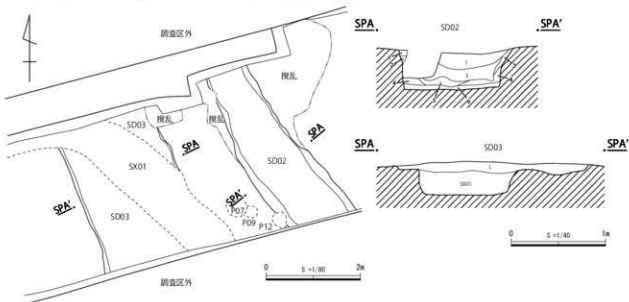
位置：D-2グリッド。重複関係：土層断面ではSD03がSX01を切る形になっていたため、SD03の方が新しいものと考えられる。主軸方位：N-6°-W。規模・形状：調査区内では概ね直線状を呈する。両端は、調査区外に延びる。調査区内では長さは2.98m、上端幅1.97~2.07m、下端幅1.92~1.95m、確認面からの深さ0.12mである。断面形は薄い皿状を呈する。覆土：1箇所にて覆土を観察した。単層で自然堆積であると考えられる。

遺物（第12図 図版5-8）

出土遺物：本遺構からは、土師器5点、52.0gが出土している。これらのうち1点を図示した。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



SD02 (SPA SPA')

- 1 10YR5/3 (にぶい黄褐色土) 粘性、締まりあり φ2~5cmの明黄褐色ブロック多量含む。
- 2 10YR3/1 (黒褐色土) 粘性、締まりあり φ0.1~0.3cmの棕色粒子極微量含む。
- 3 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり φ2~3cmの明黄褐色ブロック中量含む。
- 4 10YR7/6 (明黄褐色土) 粘性、締まりあり φ2~3cmの棕色ブロック中量含む。
- 5 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり φ2~5cmの明黄褐色ブロック中量含む。
- 6 10YR4/2 (灰黄褐色土) 粘性、締まりあり φ2~3cmの明黄褐色ブロック少量含む。

SD03 (SPA SPA')

- 1 10YR3/3 (暗褐色土) 粘性、締まりあり φ0.1~0.3cmの明黄褐色粒子少量、φ2~5cmの明黄褐色ブロック中量含む。

第10図 第2・3号溝状遺構実測図 (SD02・03)



第11図 第2号溝状遺構出土遺物実測図 (SD02)



第12図 第3号溝状遺構出土遺物実測図 (SD03)

第3表 第2・3号溝状遺構出土遺物観察表 (SD02・03)

探検番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
11-1	SD02	縄文土器	口縁部	— (3.5)	17.8	外面 平截竹管による斜行文 内面 ナデ	φ 1 mm以下白色粘土中量	普通	外面 暗褐色 (7.5YR3/3) 内面 褐色 (7.5YR4/3)	混入
5-4		深鉢	—	—	—	外面 タテハケメ	—	—	外面 灰褐色 (7.5YR4/2)	
11-2	SD02	土師器	胴部	— (5.0)	21.2	外面 ココナデ 内面 斜行方向にハケメ	φ 1～2 mm白色粘土微量	普通	外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 内面 にぶい黄褐色 (10YR6/3)	
5-5		甕	—	—	—	外面 ココナデ	—	—	外面 灰褐色 (7.5YR4/2)	
11-3	SD02	土師器	頸部	— (2.6)	12.0	外面 斜行方向にハケメ 内面 ココナデ	φ 1～2 mm赤色粘土中量 φ 1～2 mm白色粘土少量	普通	外面 灰褐色 (7.5YR4/2) 内面 褐色 (7.5YR4/3)	
5-6		甕	—	—	—	外面 縦方向にヘラナデ	—	—	外面 にぶい褐色 (7.5YR6/4)	
11-4	SD02	土師器	脚部	— (6.9) (10.3)	153.7	外面 縦方向にヘラナデ 内面 粗く横方向にヘラナデ	φ 1 mm以下白色粘土中量	普通	外面 褐色 (7.5YR4/3) 内面 褐色 (7.5YR4/3)	
5-7		台付甕	—	—	—	外面 タテハケメ	—	—	外面 灰褐色 (7.5YR3/2)	
12-1	SD03	土師器	胴部	— (3.1)	11.6	外面 タテハケメ 内面 ナデ	φ 1～2 mm白色粘土微量 φ 1～2 mm赤色粘土微量	普通	外面 灰褐色 (7.5YR3/2) 内面 褐色 (7.5YR4/3)	外面に付着物 あり
5-8		甕	—	—	—	—	—	—	—	

3 ピット

第4号ピット—P04

遺構 (第13図 図版4-7・8)

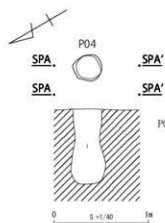
位置: E-1グリッド。重複関係なし。平面形・規模: 調査区東側で検出された。主軸方位: N-2°-E。長軸 0.31m、短軸 0.28m、検出面からの深さは 0.91m。平面形は円形を呈する。

遺物 (第14図 図版5-9)

出土遺物: 本遺構からは、土師器6点、50.8 gが出土している。これらのうち1点を図示した。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



第13図 第4号ピット実測図 (P04)

P04 (SPA SPA')
 1 10YR3/2 (黒褐色土) 粘性、締まりあり
 φ0.1～0.3cmの明黄褐色粒子極微量、
 φ2～3cmの明黄褐色ブロック少量含む。



第14図 第4号ピット
出土遺物実測図 (P04)

第4表 第4号ピット出土遺物観察表 (P04)

調査番号	出土遺物	種類	部位	法量 (cm) 口径 器高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
14-1		土師器	口縁部	(10.8)	29.2	外面 ナデ	φ1mm以下白色粒子微量	普通	外面 にぶい赤褐色 (5YR5/4)	
5-9	P04	土師器	口縁部	(5.5)		内面 ココハケ後、ナデ			内面 にぶい赤褐色 (5YR5/4)	

第5表 第4号ピット計測表 (P04)

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考
P04	E-1	円形	0.31	0.28	0.91	土師器6点 50.8g	

第2節 近世の遺構

1 溝状遺構

第1号溝状遺構—SD01

遺構 (第15図 図版1-1～3)

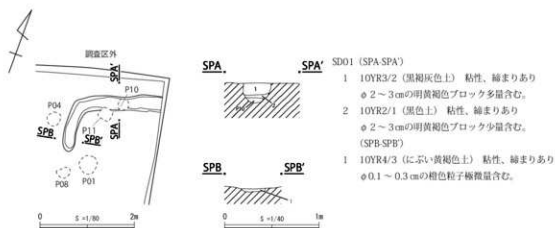
位置: F-1グリッド。重複関係:P10、P11に切られる。主軸方位:東西でE-18°-N。規模・形状:東側が調査区外へ延びるため、全体の形状は不明である。調査区東壁から西に進み、L字状に南側へ屈曲する。調査区内で北溝は1.81m、西溝は1.07mである。上端幅0.25～0.37m、下端幅0.16～0.27m、確認面からの深さ0.39mである。コーナー部で床面が立ち上がる。断面形は、皿形を呈する。覆土:2箇所にて覆土を観察した。2層と1層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土遺物:本遺構からは、瓦2点、97.1g、鉄滓1点、212.5g、漆喰1点、35.0gが出土している。

時期

出土遺物から近世と考えられる。

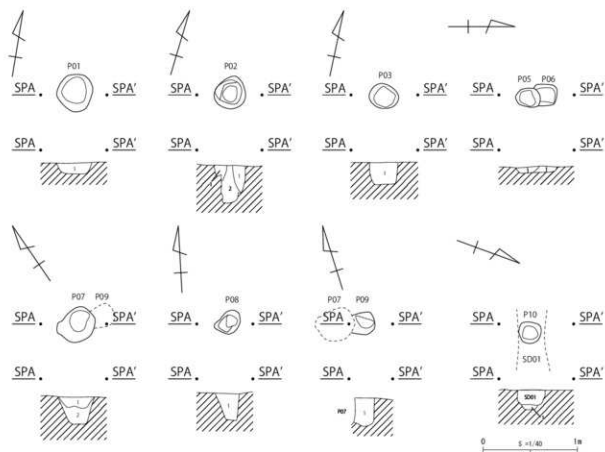


第15図 第1号溝状遺構実測図 (SD01)

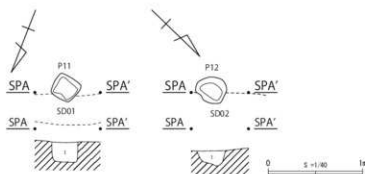
2 ピット

遺構 (第16・17図 図版1-5、図版4、図版5-1~4)

本調査では11基のピットを検出した。P03から土器1点、8.4g、須恵器1点、3.0gが出土しているが、須恵器は混入と考えられる。



第16図 ピット実測図 (P01～03・P05～10)



- P01 (SPA-SPA)
 1 10YR2/2 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.5 \sim 1$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
- P02 (SPA-SPA)
 1 10YR3/2 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 3 \sim 10$ cmの明黄褐色ブロック多量含む。
 2 10YR3/2 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの明黄褐色粒子中量含む。
- P03 (SPA-SPA)
 1 10YR2/2 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの橙色粒子微量。
 $\phi 2 \sim 3$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
- P05 (SPA-SPA)
 1 10YR3/4 (暗褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの橙色粒子少量含む。
- P06 (SPA-SPA)
 1 10YR3/3 (暗褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの橙色粒子微量含む。
- P07 (SPA-SPA)
 1 10YR3/3 (暗褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの橙色粒子少量。
 $\phi 3 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック中量含む。
 2 10YR3/4 (暗褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 2 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック多量含む。
- P08 (SPA-SPA)
 1 10YR3/2 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの明黄褐色粒子少量含む。
- P09 (SPA-SPA)
 1 10YR4/3 (にぶい黄褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 0.3$ cmの橙色粒子少量。
 $\phi 2 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
- P10 (SPA-SPA)
 1 10YR3/1 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 2 \sim 5$ cmの明黄褐色ブロック少量含む。
- P11 (SPA-SPA)
 1 10YR3/3 (暗褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 1$ cmの明黄褐色粒子中量。
 $\phi 6$ cmの明黄褐色ブロック含む。
- P12 (SPA-SPA)
 1 10YR3/1 (黒褐色上) 粘性、締まりあり
 $\phi 0.1 \sim 1$ cmの明黄褐色粒子中量含む。

第17図 ビット実測図 (P11・12)

第6表 ビット計測表

遺構名	位置 (グリッド)	平面形状	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考
P01	F-1	円	0.40	0.38	0.12	なし	
P02	F-2	円	0.34	0.33	0.40	なし	
P03	F-2	楕円	0.31	0.27	0.23	土器1点、8.4g、須虫類1点、3.0g	
P05	E-2	楕円	0.26	0.20	0.06	なし	
P06	E-2	円内	(0.20)	0.22	0.07	なし	
P07	E-2	楕円	0.42	0.37	0.30	なし	
P08	F-1・2	楕円	0.29	0.20	0.28	なし	
P09	E-2	楕円	(0.21)	0.24	0.30	なし	
P10	F-1	円	0.24	0.22	0.07	なし	
P11	F-1	円内	0.32	0.31	0.21	なし	
P12	E-2	楕円	0.32	0.28	0.13	なし	

第4章 まとめ

今回の前谷遺跡第12次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構1基、溝状遺構2条、ピット1基、近世の溝状遺構1条、ピット11基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

1 縄文時代

今回の調査では、SD02から縄文時代中期の土器片が出土した。断面が摩耗しており、流れ込みと思われる。前谷遺跡では第7次調査で、平安時代の溝状遺構から流れ込みとみられる縄文時代中期の土器片を検出しているため、前谷遺跡周辺には縄文時代の活動拠点があった可能性がある。

2 弥生時代後期後半から古墳時代前期

今回の調査では周溝状遺構1基、溝状遺構2条、ピット1基を検出した。SX01は、調査区中央に位置し、南西壁から伸びた溝はグリッドC・D-2で南東側に屈曲し調査区外に至る。北東側のコーナーに比べ南西側はゆるく屈曲しているため、開口部が南西側につく隅丸方形の形状とみられる。周溝内で柱穴等の建物跡を検出できなかったため、周溝持ち建物跡か方形周溝墓であるかは判断できなかった。

溝状遺構は2条検出した。SD02は南北に延びる溝で調査区が狭いため、周溝状遺構の可能性もある。SD03は幅が広く掘り込みが浅い断面皿状の溝であるが、前谷遺跡では他に類例がなく、性格も不明である。

3 近世

今回の調査では溝状遺構1条とピット11基を検出した。調査地は旧中山道の沿線にあたり、江戸時代には街道沿いに多くの家屋が並んでいた場所である。溝状遺構とピットからは規則的な配列を読み取ることができないが、旧中山道に関連する遺構と見られる。

また遺物として、溝状遺構からは瓦が出土している。調査地付近では江戸時代から昭和にかけて瓦の窯跡があった一方で、明治時代になっても瓦葺きの建物はほとんどなかったとされているため、今回検出した瓦は窯跡に関係する可能性が高い。

4 まとめ

以上のように前谷遺跡第12次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の周溝状遺構1基と溝状遺構2条、ピット1基、近世では溝状遺構1条、ピット11基を検出した。

これまで前谷遺跡では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構は遺跡西側に集中しており、東側はほとんど確認されていなかった。今回の調査によって周溝状遺構が国道17号線付近まで広がっていたことが分かり、当該期の集落範囲が北東側に広がっていることが判明したことは大きな成果である。

また、旧中山道に関連するとみられる近世の溝状遺構・ピットなども検出できたため、前谷遺跡東側を調査する中で、旧中山道の状況についても調査していく必要があるだろう。

引用・参考文献

- 赤熊浩一 2012 『前谷遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第394集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤和彦 1978 『前谷遺跡発掘調査概報』 戸田市文化財調査報告XIII 戸田市教育委員会
- 今井源吾・辻弘和 2020 『前谷遺跡VI』 戸田市文化財調査報告XXIX 戸田市教育委員会
- 今井源吾・林ひかる・バリノサーヴェイ株式会社 2021 『前谷遺跡X』 戸田市文化財調査報告33 戸田市教育委員会
- 岩井聖吾・坂上直嗣・山崎裕子 2013 『南原遺跡XI』 戸田市文化財調査報告XVIII 戸田市教育委員会
- 岩井聖吾 2014 『前谷遺跡II』 戸田市文化財調査報告XIX 戸田市教育委員会
- 2015 『前谷遺跡IV』 戸田市文化財調査報告XX 戸田市教育委員会
- 大矢雅彦・高山一・久保純子・応用地質株式会社 1996 『荒川流域地形分類図』 建設省 関東地方建設局 荒川上流工事事務所
- 柿沼幹夫 2021 「考古学から考える古隅田川と利根川の流路（覚書 その3）」『野外調査研究 第5号（通巻第30号）』『野外調査研究』編集委員会
- 柿沼幹夫 2022 「考古学から考える古隅田川と利根川の流路（覚書 その4）」『野外調査研究 第6号（通巻第31号）』『野外調査研究』編集委員会
- 埼玉県戸田市教育委員会 1977 『戸田市の民家』
- 塩野 博 1981 「第一編 第一章 第三節 前谷遺跡」『戸田市史 資料編I 原始・古代・中世』戸田市
- 塩野 博・伊藤和彦 1981 「第一編 第三章 第一節 縄文時代の遺物」『戸田市史 資料編I 原始・古代・中世』戸田市
- 長澤有史 2018 『前谷遺跡V』 戸田市文化財調査報告XXVII 戸田市教育委員会
- 福田 聖 2014 『低地遺跡からみた関東地方における古墳時代への変革』六一書房
- 長瀬 出 2000 「東京都豊島馬場遺跡における「方形周溝墓」の再検討」『法政考古学』
- 山下英世 1983 「第3章第6節 諸職」『戸田市史 民俗編』戸田市
- 吉田幸一 2019 『前谷遺跡VI』 戸田市文化財調査報告XXVIII 戸田市教育委員会

写真図版



1 第1号溝状遺構完掘（南から）



2 第1号溝状遺構AA'断面（東から）



3 第1号溝状遺構BB'断面（南から）



4 第1号溝状遺構遺物出土状況（南から）



5 第11号ピット完掘（北から）



1 第2号溝状遺構完掘（南から）



2 第2号溝状遺構北部拡張（南から）



3 第2号溝状遺構断面（北から）



4 第2号溝状遺構遺物出土状況1（東から）



5 第2号溝状遺構遺物出土状況2（北から）



1 第1号周溝状遺構完掘（南西から）



2 第3号溝状遺構、第1号周溝状遺構断面（北から）



3 第1号周溝状遺構BB'断面（南西から）



4 第1号周溝状遺構遺物出土状況（西から）



5 深掘南壁基本土層（北から）



1 第1号ピット断面 (南から)



2 第1号ピット完掘 (南から)



3 第2号ピット断面 (南から)



4 第2号ピット完掘 (南から)



5 第3号ピット断面 (南から)



6 第3号ピット完掘 (南から)



7 第4号ピット断面 (北西から)



8 第4号ピット完掘 (北西から)



1 第9号ピット断面（南西から）



2 第9号ピット完掘（南西から）



3 第12号ピット断面（東から）



4 第12号ピット完掘（東から）



第1号周溝状遺構出土遺物 (SX01)

第2号溝状遺構出土遺物 (SD02)

第3号溝状遺構出土遺物 (SD03)

第4号ピット出土遺物 (P04)

報告書抄録

ふりがな	まえやいせきじゅうに まいぞうぶんかざいはくつちようさほうこくしよ							
書名	前谷遺跡Ⅱ 埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	戸田市文化財調査報告							
シリーズ番号	35							
編著者名	今井 源吾・田中 雄大							
編集機関	戸田市教育委員会							
所在地	〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田 1-18-1 Tel. 048(44)1800							
発行年月日	2023（令和5）年1月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まえやいせき 前谷遺跡 たいじゆうにじちようま 第12次調査	とだし かみただ 戸田市上戸田 ちちようめ ぼん 二丁目2番17	11224	06- 003、 004、005	35° 48' 56"	139° 40' 53"	2022.9.26 ～ 2022.10.15	88.18	道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
前谷遺跡	集落跡	弥生時代 後期後半 から 古墳時代 前期	周溝状遺構 1基 溝状遺構 2条 ピット 1基	土師器	・周溝状遺構1基を検出した。			
		近世	溝状遺構 1条	土師器				
		その他	ピット 11基	縄文土器				
要約	<p>本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である、前谷遺跡の範囲に属し、JR 埼京線戸田公園駅から北東に約 700mの戸田市上戸田二丁目2番17に所在する。</p> <p>前谷遺跡は、利根川・荒川・入間川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）の左岸に分布している微高地に立地している。</p> <p>調査の結果、弥生時代後期後半から古墳時代前期では周溝状遺構1基、溝状遺構2条、ピット1基、近世では溝状遺構1条、その他ピット11基を検出した。遺物は、縄文土器、弥生時代後期後半から古墳時代前期の土師器、近世の瓦、鉄滓、漆喰が出土した。</p>							

戸田市文化財調査報告 35

前谷遺跡Ⅱ

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1
TEL 048(441)1800

印刷 野崎印刷紙器株式会社
〒230-0001 神奈川県横浜市鶴見区矢向3-15-27

発行日 令和5年1月31日